

遊びを含む身体的相互交渉を通じた自閉症児の発達的变化

三 浦 亜 紀 (新城設楽児童相談センター)
森 崎 博 志 (愛知教育大学障害児教育講座)

要約：本稿では、自閉症児を対象に、動作法、また遊びを含めた身体的相互交渉を基盤とした関わりを行った事例を紹介し、その関わりの効果と発達の意義について検討することを目的とした。事例においては、まず、子どもとしっかりと触れ合いを持ち、自己－他者という関係性の成立（他者認知の形成）を主なねらいとし、それを基盤として共同注意行動や模倣行動などの発達の視点を動作訓練や遊びの中で意識しながら関わった。その結果、子どもの中に自己－他者という対人的関係性が成立し、言葉の表出やトイレトレーニングなどにおいて発達の変化がみられた。日常生活場面における社会的行動変容の基盤には、自閉症児の対人的表象形成、つまり、情動を含む対人的認知の形成が大きく関与していると推察された。

キーワード：動作法、自閉症、発達支援

Ⅰ. はじめに

自閉症児への発達援助法は数多く検討されており、様々な視点からの実践が多様に行われている。自閉症児は、共同注意行動や模倣行動など獲得が困難な面があり、子安（2000）は、健常児では、視線の追従、宣言的指さし、物の提示が、10ヶ月から14ヶ月頃みられるのに対し、自閉症児では発達が著しく遅れると述べている。自閉症児の発達援助において、こういった共同注意行動、模倣行動などに注目し、発達支援を行うことが重要であることは周知の通りである。

動作法は、様々な対象に適用される発達援助法であるが、自閉症児に対しては、身体的なやりとりを対人相互交渉の媒介として動作課題を行い、他者認知を育むことで、それに基づく社会的行動様式の変化や自閉症児の心の在り様の変容をもたらすことがねらいとなる（森崎, 2002, 2004）。本稿では、児童相談センターで現在継続中の面接経過について報告する。自閉症児を対象に、遊びを含めた身体的相互交渉を基盤とした関わりを進める中で、共同注意を成立させ、自己－他者という他者認知を育むことをねらいとした発達支援を行い、その効果と発達の意義について検討する。

Ⅱ. 事例の概要

1. クライアント

自閉症女児E（来所時4歳）

2. 主訴

便を家の外の決まった場所でしており、雨の日はずっとせず、外出時もしない。おしっこは家のトイレでするが、家以外では母親以外の人とできない。一人遊びばかりで発話がなく、人との関わりも難しい。

3. 家族構成

祖父母、両親、兄、本児の6人家族。

4. 生育歴及び発達経過

39週で出産。吸引による人工分娩で新生児重症黄疸があり、2日間光線療法を受ける。定額は3ヶ月、寝返りは6ヶ月でお座りは8ヶ月にみられ、ハイハイは10ヶ月であった。つかまり立ちは13ヶ月、始歩は16ヶ月。人見知り、後追いはなかった。1歳半検診では、発語がみられず、指示理解の反応がなく、絵カードや積木に興味を示さないためフォロー対象となった。2, 3歳の頃、言葉は少し出たが消失した。言語訓練へ2歳から通っている。4歳から障害児通園施設へ週4日、幼稚園へ週1日通っている。

5. 来所に至る経緯

Eは療育手帳再判定のため本児童相談センターへ来所。療育手帳申請の判定の際、母親がEの面接を希望し行うことになった。

6. 来所時の様子

泣きながら来所。「えーんえーん、痛い痛い」と繰り返した。慣れない所はどこへ行っても大泣きする。少し経つと慣れた様子になり、笑顔がみえた。視線は合うが、遠くを見るような眼差しで焦点が合わず、表情も硬い。

7. 発達検査

・田中ビネー検査

CA4:10, MA1:3（算出不能）IQおおよそ26程度。なぐり描き、点々を描くことは可能だが、直線は難しい。1歳級「3種の型はめ」、「積木積み」は正答を得たが、発語がなく語彙も分からない。紐通しは練習すればできるようになった。検査中は行儀が良く、教示の理解は少しあった。アイテムを手取るが動かそうとせず、くちようだい>をするとくれる。アイテムを鼻にくっ付けて臭いを嗅ぎ、口元へ滑らせ、尖らせた唇に触れる感覚遊びを繰り返した。

・遠城寺式発達検査

（運動）移動運動57，手の運動24，（社会性）基本的習慣57，対人関係41，（言語）発語21，言語理解28，DQ30。内的言語はあるが外的言語として出てきていない。

8. 面接構造

1セッション60分程度の時間枠で行い，Eの面接は45分程度，Eを伴う母親面接は15分程度とした。面接内容は，動作訓練を15分程度，遊びを30分程度としたが，その日の状況により多少変わることもある。

9. 動作課題

動作法においては，腕上げ，軀幹ひねり，前屈一背反らせ，膝立ち課題を行った。動作課題はどの課題においても他者認知を促す課題といえるが，各課題によって，そのねらいには違いがみられる。

・腕上げ課題は，子どもが仰臥位になり，対面しながら援助者とともに腕を動かす課題である。これは，自閉症児への発達援助法として，共同注意を成立させ，それを通して自己－他者という二者関係の形成（深化），また，さらには三項関係を含む共同注意行動の獲得を促す課題でもある（森崎，2002）。森崎は，腕上げにおける自己－他者の関係性のステージを「導入（孤立的状態→他者への応答）」，「他者意図の理解」，「自己－他者関係の成立」，「三項関係の成立」の4段階に分類している。これらは自閉症児の発達段階に応じた援助について課題のステップを示すものであり，腕上げ課題の中で視線を合わせていくこと（共同注意を通じた他者認知の形成）に重点を置き，その後，指差しでの交互凝視を促しながら三項関係の成立を目指すものとなっている。また，腕上げ課題は，自己調整力を育てていく面も持ち合わせている。本稿においても，腕上げによる動作課題を上記の4段階を意識しながら行っていった。

・軀幹ひねり課題は，子どもが側臥位になり，体幹を大きくねじるようにゆっくり動かしながら，肩や胸周りの緊張，また上体全体を弛めていく課題である。身心のリラクゼーション的な意味合いを持ち，ゆったりと落ち着いた状態をもたらすための課題といえる。

・前屈一背反らせ課題は，子どもが胡座（または楽座）になり，腕を前に伸ばしながら上体を腰から前方に倒すように前屈して股関節部を弛めた後，上体を後ろへ反らせながら援助者に身を任せ，上体の緊張を弛めていく課題であり，やはり落ち着いた状態をもたらすための課題である。また，背後にいる援助者に身を任せていく過程を通し，他者認知の深化にも繋がる面もある。

・膝立ち課題は，膝立ちの姿勢を保持したり，援助者の指示に合わせて重心移動する中で，子どもが姿勢のバランスを取れるよう援助していく課題である。細かな姿勢制御や重心移動の際のバランス取りを通して自

己調整力を育むねらいがある。

・各課題の実施に当たっては，森崎（2002，2004）が述べるように，援助者がゆったりと落ち着いて子どもを包み込むように受け入れ，その上で，身体を介し心身で子どもとしっかりと触れ合えることを意識した。

III. 面接経過

面接はX年10月からX+1年11月までの計24回である。クライアントをE，筆者をThとし，クライアントの言葉を「」，Thの言葉を＜＞で表記した。動作訓練経過と遊びの経過を分けて報告し，日常の様子は＊で示した。

#1

《遊び》 Eは，フィジオボールを転がして遊び，＜ちようだい＞と言うとボールを持って来るが，転がして返すことはできない。泣いていたが，ベルの音を出す木の玩具に注意が向くと泣き止んだ。気持ちが玩具に向き，静かになった時，大便をした。Eは便を手で取りThに差し出して泣いた。トイレへ行くと，おしっこをしたい様子で，座椅子に座らせるとすることが出来た。プレイルームへ戻ると，ケーキやお皿のアイテムの匂いを嗅いでは，唇に付けて手放す行動を繰り返した。片方の手には，アイテムをギュッと握り，Thの膝に座りながら遊んだ。バイバイは，手の甲を外側に向けていた。

＊母子分離の時泣いたが，Thと手を繋ぎプレイルームへ。台風で外に出られず便が出ていなかったが，家以外で初めて出来た。おしっこもThと行えた。

#2

《動作》 Thが寝転がり，＜Eちゃんも一緒に寝ようよ＞と誘うと，Thの胸辺りに来てゴロンと横になった。Eの腕を上げるように手を触ると，「ウウウ」と泣きそうな声になった。視線を合わせる時間が長くなると，「ウウウ」という声が大きくなった。EをThの膝に乗せ，ギッタンバッコンをすると喜び，Thの鼻に自分の鼻をくっつけ嬉しそうに笑った。

《遊び》 抱っこしてほしい様子で手を上げてピョンピョンするので抱き上げると，玩具を探しては，Thの手を持って玩具を触らせ，自分の手で触った。玩具の匂いを嗅いで唇へ触れるのを繰り返した。フィジオボールに乗るので，Thが動かすと「キャァキャァ」と喜んだ。終了渋りがみられた。

＊母子分離はスムーズ。手の甲を外側に向けてバイバイした。先回の面接後から母親の手を引きトイレで便をするようになった。帰る時，Eは待合室にあるカードを1枚Thに渡し，2枚を持ち帰った。

#3

《動作》 ＜ギッタンバッコンしよう＞と言うとやって来てThの頬に自分の頬をくっつけて声を上げて笑

った。Thが膝を叩くと、Thの上に乗ってギッタンパッコンをしたが、表情は硬い。＜ゴロンしよう＞とThが横になると、暫くしてやって来て仰臥位になる。一緒に腕を上げて行くと、声を「ウウウ」と出す。両腕動かしたところで、足をバタバタさせたり、身体をくねらせたりしたが、それまではThの動きに合わせて腕を動かすことができた。

《遊び》 抱っこを要求し、Thに抱かれて降りることを繰り返した。また、アイテムを唇に当てたり、舌打ちしたりした。Thを呼ぶ時に「シンニン」と話すように言うので、＜はいい＞と返事すると瞳を大きくしThを見た。フィジオボールを動かすと喜んで「キャッキャッ」と表情が弛む。Eから関わってくる感じであった。お終いを告げてでも終われないので、＜赤ちゃんにバイバイしようね＞と手の平を外側に向けてお人形にバイバイしながら終わりを促した。

*トイレは、行きたい時に行けるようになった。

#4

《動作》 ＜ギッタンパッコン＞とThが言うと、Thの膝に座りギッタンパッコンをした。Thの顔に自分の顔をくっ付けた。腕上げでは、「ウッ」という声は出なくなり、ほとんど補助なしでもThをジーツと見つめながらやれた。身体をくねらせるので、軀幹をひねっていくと両肩とも柔らかく床に着いた。前屈では胡座の姿勢が崩れたが、背反らせでは上体をThに任せられた。

《遊び》 Thの顔に自分の顔をくっつける。フィジオボールで遊ぶと声を上げニコニコし、Eが攻めるので＜キャー＞と言うと喜んだ。＜よいしょ＞と言うと微かに「よいしょ」と言った。

*プレイルームへ向かう時、母親へ手の平を外側に向けてバイバイした。一昨日からやるようになったとのこと。今までは、園の給食の野菜など食べることができなかったが、何でも食べるようになり、促されれば他児と行動するようになった。

#5

《遊び》 玩具を取りたい様子でThを見るので、箱を指差して箱に乗るよう示すと、箱に乗り玩具を探した。Thが見ていると嬉しそうにやって来るので、＜すごーい＞と手を叩くと抱きつき、Thの鼻に自分の口をつけた。＜ゴロンしよう＞と、おやすみの身振りをするとEも同じように真似した。「ワンワン」と犬の鳴き声がすると外を気にし、一緒に犬を見た。＜ワンワンあそこにいるよ＞と指を差して伝えと、そちらを見て一緒に手を振った。

*面接後、母親に甘えた。言語訓練を今までやらなかったが、やるようになった。

#6

《動作》 ギッタンパッコンではThの＜ギッタンパッコン＞という声掛けのリズムに合わせて身体を動かさせ

た。Eを横に寝かせ、軀幹ひねりを行うと、「ウウウッ」と言い出したが、動きは柔らかい。楽座の姿勢を保持し、崩れそうになると戻しながら背反らせが出来た。スムーズではないが、身を任せてくれる感じがあった。

《遊び》 外を眺め、雲の流れを見ていた。首飾りをつけてあげると、何だろうといった様子で取ったり、Thがまたかけてあげたりした。

#7

《動作》 軀幹ひねりでは、「ウーウー」と泣きそうになり、身体を起こそうとするので玩具を使って行った。腕上げでは、玩具を＜頂戴、どうぞ＞と交換しながら、視線が合うように注意した。

《遊び》 ネックレスを＜頂戴＞するとくれ、Eはネックレスを首にかけてもらおうといった様子で頭を下げた。フィジオボールに乗った後、Thにぶつかりながら落ち、Thの膝に乗った。激しく遊び、喜び方や声が大きくなった。

*家では兄や祖父母と一緒に遊ぶようになり、日常の挨拶をする場面で、(言葉ではないが)祖父母に頭を下げるようになった。

#8

《動作》 ＜ねんねしようよ＞とThが頬に手を重ね、ねんねの仕草をすると、同じように真似て、Thの頭に自分の頭をぶつけて走っていった。軀幹ひねりでは、Thの手が肩に触れるとケラケラ笑った。Eの顔にThの顔が近づいたり、Thの髪がEに当たると嬉しそうにする。視線をずっと合わせて行うことができ、瞳を大きくさせていた。

《遊び》 笑いながらThを見つめた。フィジオボールでは、Thにぶつかって来るので転ばせてあげると喜んだ。独り言のように何か話していた。

*園では、今まで参加できなかったマラソンに参加するようになった。セッション終了後、Thの後をついて来て、本センターの職員を見渡した。

#9

《動作》 ギッタンパッコンに誘うと勢いよくThに乗ってきた。ギッタンパッコンを思い切りやり、＜ゴロンしようよ＞と言うと寝転ぶ。軀幹ひねりを行ったが、やりたくない様子でぐずってしまい、腕上げもThの働きかけに上手く応じてくれず、集中できなかった。

《遊び》 ビー球を口に入れたのでThがEの口元に手を近づけると吐き出した。トランポリンで一緒に飛び跳ねると声を上げ喜んだ。歌を歌うような様子でリズムに合わせて、声を出しながら自分の声に耳を傾けているような顔つきをした。Thが童謡を歌うとジーツと聞いて身体を動かした。

*今までは砂いじりが多かったが、花壇や石の上に登るなど行動が広がってきた。また、父親や兄に玩

具の遊び方を教わりながら一緒に遊べるようになった。おやつのお時間やお昼ご飯のお時間には自ら席に帰って来たり，母親の声掛けで遊びを中断し戻って来れるようになった。

#10

《動作》 Thが抱っこしたままギッタンバッコンし，歌を歌うと安心した様子でThにもたれ，リズムに合わせて身体を揺らした。軀幹ひねりでは，肩が床に着くまで弛められ，＜1，2の3＞に合わせて行えた。「ウウッ」と出そうになるものの，以前よりThの指示が通りやすくなった。前屈では胡座が崩れる。腕上げは，握り締めた玩具をThに手渡ししながら一緒に動かす。

《遊び》 片づけの際，Thが出した玩具はThのところへ持って来た。自分で出した玩具と他者が出した玩具を区別しており，正確であった。トイレでは，紙を切る以外は全て行えた。

*待合室のカードをたくさん持ってくるので，戻すように促すと元へ戻しに行くことができた。

#11

《動作》 ＜体操するからこっちに来て＞と言うと，玩具を置いてやって来た。軀幹ひねりは，「ウウッ」と声を上げたが，励ましながら声掛けをすると行えた。腕上げでは，視線を合わせて行えた。

《遊び》 Thが櫛で人形やEの髪を梳かし，Eに櫛を手渡すとEは櫛を口に入れたので，再度人形とEの髪を梳かして櫛を手渡すと，櫛で自分の髪を触っていた。Thが皿とフォークを持って「ケーキ頂戴」と繰り返し言うのとケーキを皿に載せてくれた。Thがケーキを食べる真似をすると，不思議そうな顔をして見た。＜Eちゃんもどうぞ＞とフォークをEの口へ持って行くと，フォークを口に入れた。窓へ行き，外を眺めた。＜あそこに犬がいるよ＞と言うと，犬に向かって指差しをした。＜ワンちゃんバイバイ＞とバイバイするとEも一緒に犬に向かってバイバイした。Thの顔を見て笑い掛けた。終了時には，Thにお辞儀ができた。

#12

《動作》 ギッタンバッコンに誘うと，Thの膝に来て思いっきりギッタンバッコンした。視線を合わせると笑う。軀幹ひねりでは声掛けによく反応し，ぐずりそうな顔もするがやってくれた。

《遊び》 ＜Eちゃん，おはよう＞とハッキリした声で言うと，耳をThの口に近づけるので，再度繰り返した。喃語よりハッキリした言葉を使うよう意識しながら遊んだ。「あー」と言ったので，＜アリさんのア，あいうえおのア，アイスのア＞と言うと，自分の口を大きく開けThの口を色々な角度から見ていた。そのうち大きく開けた口とThの開けた口を重ねようとした。

*遠出をしてもぐずって嫌がり泣くようなことはなくなり，人に近づいてニコニコするようになった。遊びの幅が広がり，家や園で名前を呼ばれると応答するようになった。現在は地元の幼稚園でも落ち着いて過ごせるようになってきたことから，通園施設へ週1回，幼稚園へ週4回通うようになった。

#13

《動作》 軀幹ひねりでは，声掛けに反応して上手にでき，床近くまで弛められた。欠伸をしながら気持ち良さそうに伸びた。腕上げはThと手を合わせて腕上げでき，真直ぐに腕を伸ばしている時間が長くなった。前屈－背反らせでしっかり弛められた。Thとよく顔を近づけた。

《遊び》 「ンンン」と言いながら歌を歌っているようなので，ドングリコロコロを歌うと身体を動かした。＜おはよう＞と大きな口を開けて言うと，Thの口を見つめEも大きな口を開けた。口を開けて一緒に声を上げると目をクリクリさせて笑っていた。「ンンン」と言うことが多い。

*家で何でも食べるようになった。また，言語訓練では，おはじきの色分けができるようになった。

#14

《動作》 腕上げでは，手を上げたところで玩具を手渡してくれた。指先に注意を向けることは難しいが，Thと顔が近づき視線を合わせると嬉しそうに笑い，腕が上がったところでしっかりと伸ばせた。軀幹ひねりでは自ら軀幹を動かす。前屈では，楽座で身体を支え軽く前へ押していくと，自分でも腕をしっかり伸ばす。いっぱいまでできたところで声掛けに合わせ背反らせに向けていくと，思い切り上体を預けた。背反らせしていると足が崩れるので，崩れた足を元に戻しながら行った。

《遊び》 Thが電気のスイッチを点けるのを見ていた。「ウウウ，ンンン，ソーパ」と言う。終了時にE自ら部屋の電気を消してくれた。

#15

《動作》 腕上げでは，ニコニコしThの髪が当たるのが嬉しい様子。Thが指差しで指先を移動させると，あっちこっちに腕を持って行き，視線をしっかりと合わせて行えた。軀幹ひねりでは，声掛けに合わせてジッと一点を見つめた。Thが褒めると，瞳を大きくし，褒められているのが分かっている様子。前屈－背反らせでは，声掛けに合わせてしっかり前屈でき，上体を充分任せて背反らせし，そのまま視線を合わせた。動作を終えてもThに顔を近づけ，嬉しそうに笑った。

《遊び》 舌を鳴らすEに声を掛けるとThの目や口を見つめた。トイレでは自分で紙が切れないので，Thが切ると嬉しそうに笑った。手洗いは嫌な様子で水に手を少し濡らす程度なので，Thと一緒に洗うと「ウーウー」声を上げた。プレイルームへ戻ると，Thか

ら逃げたり、Eが鬼ごっこの鬼であるかのように追いかけてきた。タッチはできないが鬼ごっこに近い形でかけっこを楽しんでいた。

*話し掛けると自分に向けられているのが分かる様子で、Thに視線を合わせ笑顔になる。園では園児が遊びに誘ってくれ、一緒に鬼ごっこなどしている。家では、郵便が来ると遊びを止めて外を見に行くようになった。

#16

《動作》 軀幹ひねりは上手に行える。動かしている間の時間を長めにし、身体に気持ちりが向くようにそのままにしているとジッと一点を見つめ集中した。とても動きが柔らかく、すぐに肩が床に着いた。腕上げは視線を合わせながら行った。Thと顔が近づくと嬉しそうな表情をし、視線を合わせながら行った。前屈一背反らせは、足が崩れるまでの時間が長くなり、深くいっぱいまで前屈した後、身を任せて背反らせが出来、背反らせしながらThの顔を見るので声を掛けると嬉しようにした。課題をやる回数が多くなった。

《遊び》 動きが素早くなり、サササッと玩具を取りに行った。大きな声で「ラリラリラー」など言う。声を掛けるとキョトンとしていた。

*待合室で鼻をThの鼻とくっつけ、瞳を大きくさせ、嬉しようにした。終了後、公の場で「ラリラリラー」などと大きな声で言っていた。

#17

《動作》 軀幹ひねりでは肩が硬く、やりたくないといった様子でぐずるのでThが手を止めると眠い様子で身体を横へ動かしていた。腕上げではThと視線を合わせるが、握っていた玩具をThが持つと、「ウー」と嫌がるように声を上げた。前屈はあまりやれず、背反らせは何度も声を掛けると視線を合わせた。楽座が崩れかけるので、Thが戻しながら行うがすぐには応答しない。

《遊び》 <アー>と声を掛けると、Thと同じ口にし、声を出そうとするが出せず苦しそうな顔になり、「フー」と息を吸った。<声を出そうと思っているのに、声の出し方が解らなくて辛いよね>と伝えると表情が和らいだ。トランポリンでは、高く跳ぶのでThと視線がよく合った。片づけを褒めると、嬉しように笑い、「ティラティラティラ」と声を上げた。

*以前はプールで顔を浸けられなかったが、頭半分まで浸けられるようになった。プレイルームへ行く際、小走りでスキップし、嬉しい時の「ティラティラティラ」という声を上げた。

#18

《動作》 軀幹ひねりでは、瞳を大きくし、長い時間行えた。腕上げは、玩具をくここに置いておこうね>と伝え、玩具なしで片腕ずつゆっくり進めた。腕上げを指差しでの指先移動に合わせて行う時、交互凝視で

きる時がみられた。前屈一背反らせでは、胡座が長く保持できるようになり、崩れても戻せばすぐに保持して行えた。声掛けとともに深く頭を下げ前屈し、上体を任せて背反らせし、Thと視線を合わせた。

《遊び》 ブロックを持ってきて繰り返し落とすので、<箱ごと持って来たら?>と言うと、<箱ごと持って来たら>という音声と「ティラティラ」が合わさったような声を出した。後ろからThに抱きつき、おんぶの格好でThの身体で遊び、寝転がってThの背中を足でつついた。Thが振り向くと笑い、視線が合った。<アー>と言うと、Thの口と同じ口の形をし舌を出した。Thが終わりのお辞儀をするとEも深々とお辞儀した。面接後、EがThに微笑むので微笑み返すとThの鼻と自分の鼻を合わせ、「ティラティラ」と声を上げた。

#19

《動作》 軀幹ひねりでは、視線が合うと柔らかい表情で見つめ合え、Thの髪を触りニコニコした。ThがEの身体をゆっくり弛めていくと、足をくねらせた。腕上げは、やりたくない様子でぐずりつつも視線を合わせて行えた。指差しでの指先移動では、視線を合わせてやれたが、Thとペースを合わせて行うのではなく、Eのペースでサッと動かしてしまうことがあった。前屈一背反らせは、やりたくない様子で身体をくねらせながら前屈し、勢いをつけて思い切り背反らせた。

《遊び》 遊びながら「グオーグオー」など沢山声を出していた。

#20

《動作》 腕上げでは、メリハリをつけて動きを促すとそれに応じてくれた。視線を合わせ、真剣な眼差しででき、指差しでの指先移動においても指をジッと見つめたり、Thに視線を合わせたり、交互凝視もできた。軀幹ひねりは、Thの声掛けに反応して行え、終わるとThに甘えた様子で仰向けになって身体を揺らし、ホッとリラックスしているようだった。前屈では、前へ深く上体を伸ばし、背反らせでも充分上体を任せられた。

《遊び》 後ろから抱きついてThの髪をグチャグチャにした。Eは楽しそうだった。

*兄と一緒に遊ぶ際、手を繋ぐなど身体接触が活発になった。

#21

《動作》 軀幹ひねりでは、肩の辺りを触るとくすぐったがり笑うので、またくすぐってあげると「キャーキャー」声を上げた。腕上げは、ブロックを握っていたが、Thの手の動きと合わせてスムーズにやれた。指差しでの指先移動でも交互凝視でき、Thを見たり指先を見たりし、落ち着いて集中していた。Thと顔が近づくと喜び、Thの身体を触って遊び、ニコニコ

しながら外国語を話しているような声を発した。前屈一背反らせは、胡座が崩れ充分行えなかった。

《遊び》 ブロックを赤，青，黄色に色分けし，また混ぜて色分けするのを繰り返した。

*園では他児から声を掛けられ，仲良く一緒に遊ぶようになった。

#22

《動作》 軀幹ひねりでは，声掛けに合わせてしっかり行えたが，気難しい表情。Thと視線を合わせていくうちに表情が和らいだ。腕上げでは，Thと視線を合わせてメリハリをつけ，腕もしっかり伸ばせた。指差しで動きを促すと，両方の手を出して色々な方向に自分で指差し，Thをじーっと見つめてThの髪を触った。前屈一背反らせは上手に行え，充分に上体を任せることができた。膝立ちでは，膝で立つということが分からず，教示の仕方，保持の仕方を工夫したが，姿勢を保持することができなかった。

《遊び》 玩具をく頂戴>するとくれ，<どうぞ>と手渡すとお辞儀した。口をモゴモゴさせたり，膨らませたり，しかめっ面したりする。ThがEの口をつつくときニコニコした。トイレでは紙を切れるようになり，全て行えた。手も自ら洗った。<おしまいです>と伝えと，お辞儀をした。

*終了時，Thが母親と話してEと関われないでいると，泣くような表情になった。

#23

《動作》 腕上げは，Thの顔を嬉しそうに見つめ，視線をしっかりと合わせて行った。指差しでの指先移動において交互凝視ができた。軀幹ひねりでも，充分上体を弛められた。前屈一背反らせは，前へしっかりと上体を伸ばした後，Thに身を委ねるように上体を反らせてくれた。膝立ちでは，横から姿勢を補助すると上手に行えた。

《遊び》 遊びながら「ティラティラ」など喋っていた。トランポリンでは，手を上げたり回したり，身体全体を動かして大きくジャンプした。

*Thと鼻をくっつけるのは，Eなりの挨拶のような感じであった。園では，以前はじっと席に座っていらなかったが，何時間でも席に座っていられるようになった。

#24

《動作》 腕上げでは，Thと動きを合わせることができ，視線を合わせると表情が出て，声を上げて笑った。Thの髪や顔，服を触って嬉しそうにした。指差しでの腕上げでは交互凝視しながら行えた。Thが指先をあちこちに動かすと楽しんでついてきた。Thと向き合った格好で，「ガラガラガラ」と言うので「ガラガラガラ」と繰り返すと，また「ガラガラガラ」と言って笑った。二人で話しているようなやりとりだった。他にも「グルグル」，「マンマン」と言い，<アリ

さんのア，アイスのア>と言うと，Thのアの口と同じようにし，咽喉の奥から「アッハッハ」と声を出した。次に<いちごのイ，イルカのイ>と言うと，同じようにイの口にしたが言葉は出せず，「ガラガラガラ」と言っていた。軀幹ひねりでは，声掛けとともに身体が反応し，Eの身体が伸びたところでじっくり弛めていくと，身体の弛むのを感じとっているような表情で集中して行えた。身体に注意が向くようにThが力を調節して行くと，Eも自分の身体に注意を向けた。肩が床近くまで動かせたので褒めると嬉しい様子となり，じっくり行えた。前屈では楽座で腕をしっかり伸ばし，それから上体を任せて背反らせし視線を合わせた。足が崩れることなく何度もできた。膝立ちは，模倣で進めると，補助なしでも短い時間だが膝立ちできた。

*歯磨きした後，歯磨きを吐き出せるようになった。好きな遊具で自由に遊ぶようになった。

IV. 考察

1) 発達的变化

面接経過において共同注意行動の過程をみていくと，興味のある玩具を取りにいく際，#2ではThの手を持っていき，Thに玩具を触らせるクレーン現象がみられていたが，#5でThが箱を指差しして箱に乗るように指示すると，自分で箱に上がり玩具を探した。また，Thが犬を指差しして声を掛けるとEも犬を見て一緒に手を振った。#11にはE自身が犬に向かって初めて指差しした。#18では動作法での腕上げ課題において交互凝視が生じた。

模倣行動においては，#3でThが手の平を外側に向けてバイバイすると，次の#4では，手の平を外側に向けてバイバイするようになった。#5では，Thがおやすみの身振りをするとEも同じように真似し，#8においてもThと同じようにねんねの仕草を真似できた。その後，#13でThが大きな口を開けるとEも大きな口を開け，#17ではThが<アー>と声を出すとEも同じ口の形をした。そして，#24になるとEは「ガラガラガラ」と言うのでThが同じように返すとEもまた「ガラガラガラ」と応答した。#18に動作法での腕上げ課題の中で交互凝視の生起が起きた際，その回の終了時にThが終わりのお辞儀をするとEも深々とお辞儀するなど，社会的なやりとりが可能となった。Thの意図を汲み取った上でE自身もまたThに対し，Eの意図を返してくれたように思われる。面接後にEがThに微笑むので微笑み笑い返すとThの鼻と自分の鼻を合わせ，嬉しい時に放つ「ティラティラ」という声を上げた。

このように，指差しに関する三項関係での共同注意行動や模倣行動に深まりが見られているが，その基盤

にあるのは、やはり、心を通わすように子どもとしっかりと触れ合い、その中で自己－他者という対人的認知が深まっていったことが最も大きな要因であろうと思われる。

本事例における母親からの主訴の一つとして、便を家の外の決まった場所でしかできないことが挙げられていたが、日常生活場面でもトイレトレーニングが#22で完了した。#1では、EからEの便を差し出されたため、Thにとって印象的なものであった。家の外の決まった場所でしかできなかったにも拘らず、#2ではトイレでするようになった。その後、紙を自分で切ることがなかなか出来ないでいたが、#15でトイレへ行った際、Thが紙を切るとEは嬉しそうに笑っていた。それまでThはEがトイレに対して嫌悪感があるように感じていたが、この回でEの嬉しそうな笑顔がみられたことは、EがThの意図を理解し、それに伴って情動が引き出されたと考えられる。また、情動の表出においても、Eと面接を開始した当初はとても硬い表情であった。回が進むにつれ、ただ笑ったり喜んだりするだけではなく、自己表出が全体に豊かになった。#22では面接後、ThがEへ充分関われないでいると泣くでもなく、話し掛けて欲しかったといった表情を表現した。

自閉症児への発達援助において、共同注意行動や模倣行動などの発達の視点を動作訓練や遊びの中でThが意識しながら関わっていくことは、発達の変化のみならず社会的行動様式の変容に繋がっていくものといえ、そこには自閉症児の対人的表象の形成という認知的変容が大きく関与しているものと推察される。

2) 自閉症児へ関わりについて

自閉症児へ動作法を導入する際、森崎(2002, 2004)は、まず援助者がゆったりと落ち着いて子どもを包み込むように受け入れ、子どもの心の動きを絶えず読み取ろうとしながら働きかける、という援助者側の能動的な働きかけが重要だとしている。Eとの関わりにおいてもその点を配慮し、自閉症児は援助者の雰囲気敏感に反応するということを念頭に置きながら、Thがゆったり落ち着いて働きかけた。Eに動作法を導入した当初は、「ウウウ」という泣き声に近い声がよく出ていたが、Eの状況に合わせながら少しずつ動作課題を進めた。Eはその日の状態によってやれそうなところややれるところが異なっていたので、始めのうちは動作課題がまちまちであった。しかし、そういったEのペースを守ったことによって、Eは動作法に好意的であり、動作課題において#24で膝立ち課題までできるようになった。腕上げ課題では、交互凝視までできるようになり、自閉症児特有の遠くを見ているような視線の合わせ方ではなく、しっかりと視線を合わせられるようになった。動作法は、Thとの身体を

介したやりとりの中でお互いがお互いの身体(他者の存在)を感じて一緒に動かしていく作業をともに体験し、他者を意識し、他者認知を育むものである。Thとの身体を通したやりとりでは、動作課題の取り組みにおいて二人の動作的なやりとりが深まっていく感じがあり、それに伴って相手の身体を意識したり、相手の意図を感じたり、相手との情動の交流が芽生えたりしていくように思われる。例えば、躯幹ひねりの課題で上体をひねりながら力を弛めていくように働きかけていく際など、その微かな感触をお互いに身体を通して感じるような体験をする。このような体験というのはEとThとの新鮮で未知な体験といえる。この未知な体験を子どもと共有していこうとするThの臨床的な姿勢も身体を介した関わりにおいて重要であると考えられる。そのため、動作法での腕上げ課題においても、ただ視線を合わせるのではなく、援助者自身が暖かな眼差しで見つめることが必要であろう。

動作法における発達支援は、単にコミュニケーションを育む手段としてではなく、姿勢の保持や身体習癖の修正、リラクセーション、呼吸や排泄、対人認知や環境認知の変化、行動の自己調整、などを促すことが可能であり、自閉的な子どもに対し身体を介して関わることの発達の意義について今一度強調しておきたい。

文献

- 子安増生 2000 心の理論 79-80 岩波書店
- 森崎博志 2002 自閉症児におけるコミュニケーション行動の発達の变化と動作法 リハビリテーション心理学研究, 30, 65-74.
- 森崎博志 2004 自閉的な子どもへの身体を介した関わりの意義 -発達の視点からの理論的考察- リハビリテーション心理学研究, 32, 2, 49-61.